



## 全町かるた大会開かれる

全町かるた大会が一月二十五日町民会館において、チビッコから一般まで百人が参加して行われました。その結果、子供の部で春日チームが、一般の部では幕別中学校チームがそれぞれ優勝しました。

# まぐび

349

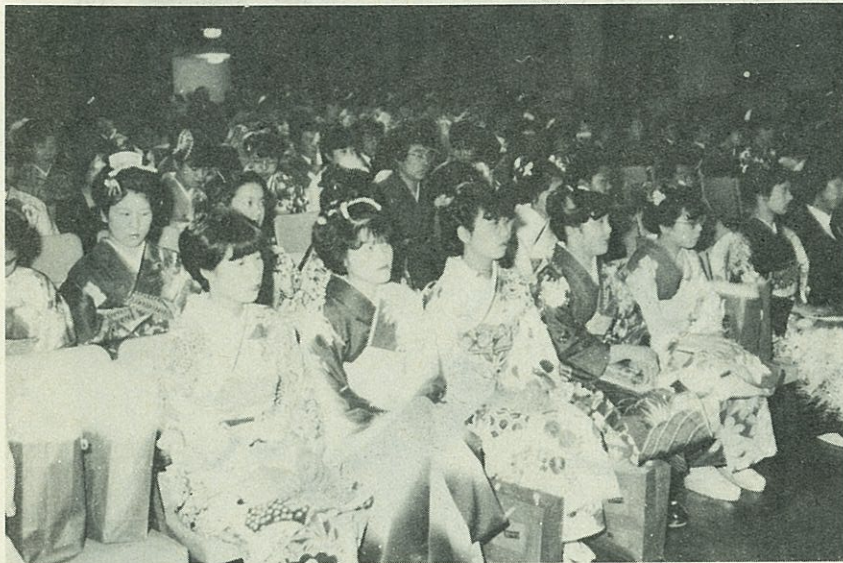
●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111  
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

'81 昭和(56年)

2

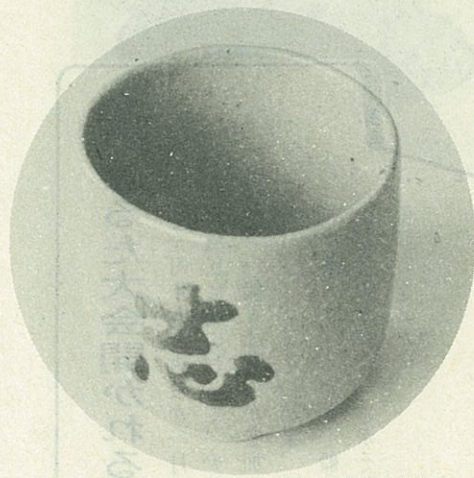
# ばたけ！20歳！

## ■町民会館に170人が出席



ことし、成人になられた方は、二百四十九人（男・百十六人、女・百三十三人）です。一月十五日の成人式には百七十人が出席。大石町長・山田議長の祝辞のあと、新成人を代表して高橋直美さん（明野）が「責任を持った行動で立派な大人になります」と答辞をの

べ式典を終わりました。式典の後は、帯広ポックス・オーケストラの皆さんによる楽しいコンサートが行なわれました。また、新成人には、お年寄たちの「手づくり」「ふるさと焼」の湯飲みに、大石町長が「志」と文字を入れて贈りました。



◀記念品はふるさと焼の湯飲み

文字は大石町長直筆

## 成人式



◀「りっぱな成人に」と大石町長が講演



大豊 橋本 浩澄さん

何をしてきたのだらうと思うほ

成人式。やっぱり大人になったという気持ちでうれいすね。でもこれからは責任ある行動が要求されます。社会的にも責任ある行動をして親に心配をかけないようにしたい。きょうまで育ててくれた両親に感謝しています。



錦町 山本はつえさん

父の経験を吸収しながら農業経営を真剣に考えたい。そして、地域の人にも認めてもらえるよう一生懸命やろうと思います。



千住 帰山 茂美さん

新成人の皆さんの中から、四人の方に成人式会場で「成人式を迎え、いま思うことは何か」をインタビューしてみました。



受付には和服姿の女性でいっぱい



音藤 一郎君と関口和子さんが町民憲章を朗読



高橋直美さんが答辞



式典の後はコンサートで



千住 関口 和子さん

ど、この二十年間がとても短かく感じました。その分、きょうからは何事にも一歩々々を大切に踏みしめて生きていきたいと思っています。また、きょうまで、健康でこれたことに親に感謝しています。

十代から二十代へ、何か急に才をとったような気がします。いままでは、何をやっても若いからと周りの人が甘く見てくれた。でも二十才になるともう大人なのだからと言われます。いままでも以上これからは、社会人として責任感を持って行動しようと思います。

### 成人者主張発表

## 「成人になって」

明倫 橋詰

仁さん



私にとって一つの目標であり、かつ出発の日と考えていた二十才。それは、ただ単に、周囲を気にせず、たばこを吸ったり、酒を飲んだりすることが出来るのではない。大人として社会からみとめられ、選挙権や、その他多くの権利が与えられる。つまりは、自分自身の意見を多くの人に一個人の意見として聞いてもらえるのではないかと思っています。

子供という親の保護や社会の保護から解放されるということ、それは、私自身にとっては心の中に一つの緊張と、そして、大人として自覚しなければならぬという気持ちでいっぱいです。

昭和五十一年、私は中学校三年生で将来社会人として持たなければならぬ職業のことを考える時期をむかえていました。家が農家で、長男ということもありました。が、それ以上に、父の働く姿をみていてか

農業という職業に感心を持ち「よしオレは父の後を継いで農業をやろう」と決心しました。そして、迷わず農業高校に進路を決め運よく希望していた学校に入学できて、三年間農業のことについて学習させてもらいました。

三年後の三月、何事もなく無事に卒業でき、以来二年間父の手伝いとして、農業にたずさわってききました。しかし、机の上で学んだことは、父の何十年にも及ぶ経験には足元にも追いつけず、ただもう必死でやってきたように思います。そして、やっと少しづつではありますが理解できるようになり、高校時代に学んだことも応用できるようになってきたときやうこの頃です。

しかし、農業をとりまく状況は、私が感

じるかぎりでは、一年々々厳しさを増すように思われます。たとえば、生産資材の異状とも思われるような値上りや農畜産物の過剰、激動の八十年代と言われるように、不況ムードの吹き荒れる中で成人式を迎えた私は、これからはひとりの農業者として、荒々しい八十年代を乗り切って行かなければならないと思っています。今までの先のことあまり考えようと思わず、ただ惰性と、なりゆきにまかせ、二十年間をすごしてきた私の人生、これからはひとりの人間として、ひとりの社会人として自分の行動に責任を持てるような人間になるよう努力したいと思います。



国際障害者年  
シンボル・マーク

障害をもつ人の社会への

# 完全参加と平等

二人の人間が連帯して手をとりに合い、平等の立場から支えあっている姿を表現しており、平等・希望・支援を表わしています。周囲の葉は、国連の紋章の一部です。

障害者とは、病気になるいは事故などのために身体的・精神的な機能が損なわれ、自分自身では通常

## 町内には

### 三四四人の人が...



バスケットボールを楽しむ子供たち

苦しみ悩んでいます。

平均寿命が延び、高令化社会が進むにつれて脳卒中の後遺症などによる障害者が増えるとともに、交通事故や労働災害などによる障害者が年々増加する傾向にあります。すなわち、わたしたちの誰もが障害者になる可能性も持っているといっても言い過ぎではありません。

このような現代社会で、障害者問題は、単に障害をもつ人だけではなく、わたしたち一人ひとりが自分自身の問題として理解し、幅広い社会的な連帯意識をもって解

- .....ことしは国際障害者年です。昭和五十一年
- .....の国連総会で決定された世界的規模の行事で
- .....テーマは障害をもつ人の社会への「完全参加
- .....と平等」です。障害者問題は、障害を持つ人
- .....だけではなく、私たち一人ひとりが自分自身
- .....の問題として障害をもつ人に対する理解と関
- .....心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に.....
- .....暮らせるよりよい社会づくりを考えていかな.....
- .....ければなりません。.....

の個人生活や社会生活を完全に、または部分的に行えない人をいいます。

全国的には、大きく分けて身体障害者約二百万人、精神薄弱者約四十万人、精神障害者約百万人の障害者がいると推計されています。

また、幕別町内には三百四十四人（昭和五十五年五月現在）の方々が肢体・視聴覚・言語や精神薄弱・内部などの障害に

## 国際障害者年

### 五つの目的

決していかなければならないと思えます。

「国際障害者年」のテーマは、障害をもつ人の社会への「完全参加と平等」です。「参加」とは単なる社会生活への参加にとどまらず、さまざまな分野で社会の発展に貢献することを意味します。

また「平等」とは、障害者であるために不平等な扱いを受けることなく、経済的、社会的に他の一般の人と同じ生活を送ることができることにあります。

このような目標の実現に向かって、国連では、次のような五つの目的を立てています。

- ① 障害をもつ人が、身体的にも精神的にも社会に適応することができるように援助すること。
- ② 障害をもつ人に、援助・訓練医療及び指導を行なうことによつて、適切な仕事につき、社会生活に十分参加することができるようにすること。



車いすに乗って  
大喜びの子供たち

## バザーの益金で

### 車いすを寄贈

—しらかば大学—

ことしは国際障害者年です。来月号から障害者を取巻く現状をシリーズで掲載いたします。

高令者学級「しらかば大学」のお年寄りたちが、昨年行なった、「大学祭」でのバザーの益金で購入す一台（五万五千円相当）を購入し、白人小学校・し体不自由児学級「あかしや学級」へ寄贈しました。プレゼントされた子供たちは早速、先生に乗せてもらい大喜びでした。

- ③ 障害をもつ人が社会生活に、実際に参加できるように、公共建築物や交通機関を利用しやすくすること。
- ④ 障害をもつ人の経済活動や社会活動などへの参加の促進について広くPRすること。
- ⑤ 障害の発生防止及びリハビリテーションのための対策を推進すること。

# 税の納入は、お済みですか

## 未納の方は、お早目に

昭和五十五年度は、生活環境の整備と教育施設の建設を柱に、魅力ある地域づくりを進めてきました。行なわれた主な事業では、札内南小学校の建設、相川小学校・駒島公民館の増改築工事、幹線町道の整備、下水道事業などで町民の皆さんの身近かなところから積極的に取り組んできたといえます。

このように、住みよいマチづくりに使われるお金は、国や道からの補助金や交付金のほかはすべて町民の皆さんからの税金で賄われています。

町民の皆さんに納めていただいているお金(町税)は、町民税・固定資産税・軽自動車税などがあり、マチづくりに使われるお金(町財政)全体の二・三%を占めています。

また、町税は自主財源(町が自由に使えるお金)として、町財政運営の中で大きな役割りを果たしています。

ところが、その町税が、最終納期(五十五年十二月十五日)を過ぎても六%が未納となっており町財政運営に大きな問題となっています。

「マチづくり」は町民みんなの力で進めていくものです。よりよい生活環境をつくるため、まだ町税を納められていない方は至急納められるようお願いいたします。

五十五年十二月末現在の主な町税の収納状況は次のとおりです。

個人町民税 九四・六%  
 固定資産税 九五・一%  
 軽自動車税 九九・一%  
 国民健康保険税 八八・八%  
 また、地域的に納税組合が百三十五組合結成され、町税納入に大変ご協力いただいておりますが、すでに完納いただいた納税組合は次の八十組合となっています。

### ●町税完納納税組合

本町二納税組合(以下納税組合を省略)・錦町一・錦町二一・錦町二二・寿町三・宝町一・南町一・豊岡二・新和南・新和北・茂発谷上・西猿別南・西猿別北・猿別上・軍岡・南勢・大豊二・大豊三・大豊八・大豊東・明野統内

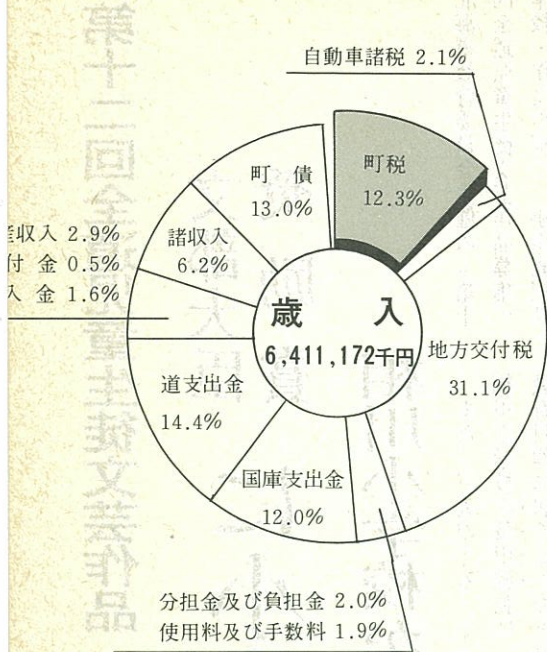
明野一・明野三・明野五・明野柴  
 新川三・相川・相川西・相川南・相川北・糠内市街二・五位・五位中央・五位四・中糠内・西糠内一  
 西糠内二・明倫一・明倫二・明倫中央・美川一・美川二・美川三・中里一・中里二・中里三・中里元  
 松・駒島一・駒島四・駒島五・駒島六・駒島八・駒島九・駒島十一・弘和・札内北栄町・札内新北町・札内青葉町第一・春日・東春日・古舞南一・古舞南二・古舞東・古舞西・古舞北・途別一・途別二・途別三上稲志別・日新二・昭和・西和・千住一・千住旭・稲志別・新生・豊岡一・共和・中稲志別・幕別商工会

昭和三十五年度もあと二か月となりましたが「マチづくり」に計画された事業は総て終了しました。

札内地区三番目の小学校として建設が行われていた札内北小学校の校舎部分完成、四月の開校が待たれています。また体育館は五十六年度建設されます。公営住宅

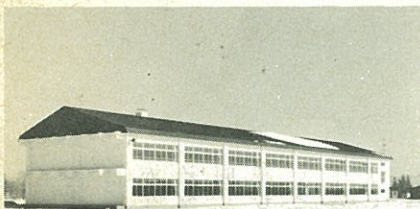
では、新緑町団地に四戸二棟、札内桂町には六戸一棟(二階建)が完成。また、道営住宅では札内あかしや町に四階建(十六戸)一棟が完成しました。

また、通勤・通学の皆さんのために、幕別駅隣りに自転車置場を設置しました。



## 55年度予算から②

# 計画された事業 総て終了



# 第十二回全道児童生徒文芸作品

## 文部大臣 奨励賞 に小山直紀君

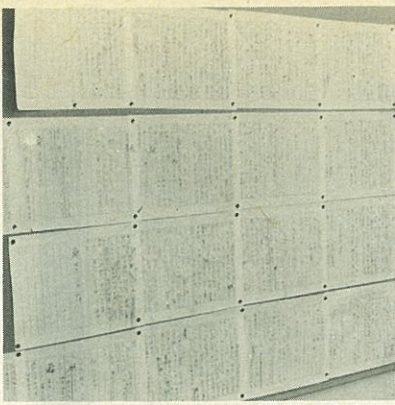
### 相川小学校から三人が入賞

北海道教育委員会主催の「第十二回全道児童生徒文芸作品募集」

小学校・作文の部で、小山直紀君（相川小学校六年）が文部大臣奨励賞を受賞。また、同じく、黒島学君（同校五年）が道教委教育長賞に、山田早恵子さん（同校二年）が佳作にそれぞれ入賞しました。

今回は、全道から二百四名の応募があり、その中からみごと入賞したものです。

文部大臣奨励賞を受けた小山君は「入賞したと知らされたときとてもうれしかった。作文は、好きなのでこれからも書きたい」と話しています。



ローカいっばいに貼りだされた作文

また、三人がそろって入賞した相川小学校の藤田校長は「学校の教育目標に書くことをとり入れています。今回は、三人が応募してそろって入賞と、とてもうれしいですね。小山君は、性格がとても

素直な子です。彼の良いところが文章の中にも表現されており良い評価になったと思います」と話しています。入賞した三人の作品を掲載いたします。（いづれも原文のまま）

#### ● 文部大臣奨励賞

#### 「ぼくのたたかい」

— 言語治療教室に通って —

#### 六年 小山直紀



ぼくは今、言語治療教室に通っている。これは、今年の二月から始まった。

ぼくはどもりだ。ふだんはなんでもないのに人前で発表する時は最初のことばがなかなか出てこなかった。全校作文発表会の時など一年生にも笑われるので、いつもつらい思いをしていた。

そんな時、町内の札内南小学校に言語治療教室ができた。ぼくは先生に言われた時、正直いって通うのがいやだった。それ

は、もう六年にもなるのに今さら言葉の勉強などみっともないと思っただからだ。それに火曜日の授業を途中でぬけて行かなければならぬし、どうしようかとまよった。

又、反面、人前でも通っているぼくの姿もみじめだ。やっぱりぼくはどもりなのだ。そこに通ってなおるのなら中学校に入るまでにどうしても治しておきたい。ついにこの気持にはげまされて通うことになった。

ぼくを治療してくれる先生は、

佐藤先生という男の先生だった。ぼくは、先生の顔をみた瞬間、静かな感じの先生だなあと思った。治療といっても、声読法といって同じ物語を声をそろえて、二人で読むことだった。佐藤先生は、ぼくといっしょに本を読んだり、ゲーム遊びなどをして気持をやわらげてくれるのがよくわかった。

こういうことは家でもやった。畑仕事から帰り、とてもつかれてあくびさえ出る母と、コピーした文章を読んだり、長い物語を読んだりした。

それから自分でもやってみた。こうしてだんだんよくなっていくような感じを覚え始めたのだった。これをたしかめるチャンスは運動会の時だった。開会式で、「次は児童会長の挨拶」と放送された。ぼくは号令台の上上がった。

「みんなしょうしないで……肩の力をぬいて……」と自分に言いかけた。

「みなさん」ゆっくりと最初のことばが出てきた。そのあとはほんの少しもつたところもあつたけれど無事終わった。

ぼくは、ホッとしたというより「やった！」という気持でいっぱいだった。あと少しで人なみに話せると思うと、その喜びもいっそう高まった。

佐藤先生も「もうほとんど治っているんだけどなあ……あとは、気持の持ちようだなあ」と額にし

わをよせて、話してくれた時、「よし、もう少しだやるぞ！」という強い意気込みがわいてきた。

二期期に入ると、遊びはあまりしなくなつて、本を読んだりすることが主体となった。佐藤先生は同じ物を二つコピーして、ぼくがまちがえた所には印を付け一人ずつ読んで、いくつぐらいまちがえたかというふうに関心もしてくださつた。まちがえた数も少なくて少なくなつてきた。

家でも、母と読むことがなくなつてきたが、今度は一人で声を出して本を読んだりした。

このような積み重ねによりだいぶよくなったので、一週間おきに通うようになった。

こんな時、一番喜んでくれたのは、母である。

そして、あともう一歩までごきつた今、ここまでできたのもぼくのおかげではなく、ぼくのことについていっしょけんめい取り組んでくださった佐藤先生をはじめ、いっしょに本を讀んでくれた母や、その他周りからあたたかい手をさしのべてくれたからだ。

「さあやるぞ、あきらめないぞ、」小学校生活は、あと半年ほどしかないが、その半年でどうにかしてどもりをなおして卒業したい。いや卒業してみせると心にちかっている。

# ●道教委教育長賞

## 「サバイバル・スクール」に

### 参加して

#### 五年 黒島 学



七月に入ってもまもなく、幕別町の広報紙に「ことしの夏休みは、サバイバル・スクールへ——参加できるのは小学校四・五・六年生」という記事がのっていた。

読んでみると、サバイバルとは「生存」という意味で、開拓時代の生活をできるかぎり再現し、当時の人たちのちえや苦労を体験してみること書いてあった。

ぼくは、なんとなくおもしろそうだったし、それに母も「楽しそうじゃない。思いきって行ってごらん」と賛成してくれたので、すぐに葉書で申し込んだ。

先着四十名とあったので、どうかと思っていたが参加できるようになり、くわしい内容を書いたパンフレットがいたので、ホッとした。

いよいよ八月一日、ぼくは、洗面道具、米、野菜、ナイフ、新聞紙など、持ち物を用意して学校前からバスに乗った。

場所は、幕別町の町から二十キロ以上はなれたぬか内川のほとりである。途中からは、米俵を両わきにふり分けた馬を先頭に三十分ほど歩き、ぼくたちがバスの中で名前を考えた「わんぱく村」に着

いた。

一日目は、開拓小屋づくり、キャンプファイヤー、二日目は、まわりの探検、化石さがし、魚すくい、いも掘り、三日目は、山のぼりなどいろいろなることを学んだ。

その中でも一番大きな仕事は、開拓小屋づくりだった。

まず、柱にする木を山から切ってくることにした。ぼくは、ナタやノコを使う自信がないので、木を運ぶ役にまわった。

六年生は、柱を組んで骨組みをつくっていたが、なわでしげる方法をおそわっていた。

川をはさんで向こう側の山から木を運んだが、橋がないので、大きな石をならべ、そこを渡っての作業は、とてもつかれた。

それから四、五年生は、屋根にするカヤを取ってきて、六年生が屋根をふいた。よく見ていたら、下から上へ順々に、ちようど魚のうろこのように重ねていった。

ぼくも、今度は勇氣を出してカマを使ってみたが、なかなかうまくできず苦勞した。

出入口はごぎを下げて、ひもでひっぱるとあくようにし、夕方までかかってやっと開拓小屋ができ

あがった。  
トイレやごえもんぶろも用意した。

二日目の夜、小屋のてっぺんから月や星が見えるくらいうすい屋根を見て、明日は雨にならなければいいなあと思った。川のせせらぎがよく聞えたら雨だと、天気予報を習ったからだ。でも月や星が見えるくらいなら明日は晴れるだろうと信じて、ねぶくろに入ってた。

朝はにわとりの鳴き声で目がさめた。その朝はいなきびごはんだった。だれかが「これは、鳥のえさが入っている」と大声でさけん

だ。黄色いつぶつぶのごはんで何んとなく心配だったが思ったよりおいしくて、二はいも食べた。

こうして三日間がアツという間に過ぎた。ぼくはこの三日間でたくさんのお話を教えられた。電気もガスもない生活、夜はランプだけの生活、それでもちゃんと生活が



### ●佳作

#### 「みどりがめ」

##### 二年 山田早恵子

五月ごろ、わたしはしいくがかりになりました。

がっきゅうで、小鳥をかうことになったけど、べんきようちゅうないたらうるさいと思ったので、みどりがめ三びきかかって、水そう

できたからふしぎである。テレビ車……やっぱりぼく達は、ぜいたくなくらしをしているのだからか……。開拓時代の人々が、どんなに苦勞して今日を築きあげてきたのか。ぼくはその一部分でも体験することができてうれしかった。

ぼくは、夏休みの自由研究で、サバイバル・スクールに参加しての記録をもぞう紙八枚にまとめて学校に持って行った。

その中には、胸につけたワッペンや明治時代の教科書、貝がらの化石や魚すくいの絵、それに新聞記事などもはってある。

最後のページには、三日間の感想として「とても不便が多かった。一週間ぐらいならがまんできるだろう。何年か後には、山に記念に植えた木を見に行きたい。

ぼくにとっては、忘れられない思い出の夏休みだった。

わたしがえさをやると、水の中におちてくるえさをパックと食べて、食べきれなかったら、手の先にあるつめでひっかいて食べたりします。

うごきは、ふだんはゆつくりと歩いています。ときどきケースの中の水をいたずらしてゆらしてみると、おどろいて、いそがしくぐるぐる回ったり、水かきですいすいとおよぐこともあります。

体ぜんたいはみどり色です。頭もみどり色で、かおのよこには、たくて白いせんがあります。頭のところはぬるぬるしていて、へびににいます。

それから、水めんにかおを出すのがぼくごこになります。

口はへの字になっていますので、ピラミットのような形です。目は小さくて、手足はひらひらしてかっぱのような形です。はなのところは少しとんがっています。

こうらは山のようにかたくてがらじょうです。

わたしは、かめが、ふだんとしている口を大きくあけてあくびをするところがかわいと思います。

「かめもやっぱりうんどうする」とつかれるんだなあと思います。

夏休みになったらうちにもつかえて、うちの池でかかっているなかまのいしがめやくさがめの池にはなして、ときどき、マラソンをさせてやろうと思います。

# 増え続ける 救急出動

●幕別消防署  
(昨年1年間の統計から)

幕別消防署では昨年一年間の火災発生状況と救急業務の統計をまとめました。これにより、まずと火災発生件数は前年より三件多く、損害額でも大幅に増加しています。また、救急車は三日に二件の割合で出動していることがわかりました。

## ●火災発生状況

昭和五十五年一年間に発生した火災発生件数は八件(被災世帯五戸、被災者十八人)と前年を三件上回っています。内訳は、住宅四件、車庫・作業場・空家・工場各一件となっています。

出火原因は、ガス・電気コンロの不始末、子供の火遊び、灯油を注入中誤って転倒したなど、「ゆだん」が火災を誘発しています。また、焼失面積は八百六十二平

方呎(前年百五十四平方呎)、損害額千七百八十五万七千円(四百六十六万二千円)と前年を大幅に上回っています。地区別には、幕別地区六件、札内地区二件で轄内地区は無火災を続けています。

●救急業務状況  
救急業務では、二百六件の救急車出動要請がありました。このうち十九件は傷病の程度が軽く救急業務の対象とはなりませんでしたが、それでも、前年より三十三件の増と年々出動回数も増えていきます。

(同) 藤平景夫(第一分団副団長) 杉野国男(同、部長) 川向良雄(同、班長) 上田栄一(同) 川向敏男(同、団員) 佐々木忠夫(第二分団部長) 山中謙治(同) 横山武(同) 広瀬勇(同、班長) 大野多喜夫(同) 武藤利貞(第三分団班長) 永井晴男(同、団員) 田中和夫(同) 小林喜信(同)

## 無火災を願って 消防団で出初式

町消防団恒例の出初式が、一月七日に第二分団、八日に第三分団九日に第一分団とそれぞれ行なわれました。出初式では、神社参拝や分列行進が行なわれ、ことし一年火災事故のないよう願いました。また、出初式の席上、功績のあった次の方々が表彰されました。(敬称略)

▽十年勤続 廣瀬堅持(第一分団班長) 桑井宏有(同、団員) 川向敏男(同) 大山巨洋(第二分団団員) 藤平景夫(第一分団副分団長) 杉野国男(同、部長) 川向良雄(同、班長) 佐藤七郎(元団員) 横

### ●北海道消防協会表彰

▽十年勤続 鈴木英二(第二分団班長) 大野潤二郎(同、団員) 高橋勝利(同) 西田利文(同) 那須将生(第一分団副分団長) 横山武(第二分団副分団長) 中條正一(第二分団副分団長)

▽十年勤続 廣瀬堅持(第一分団班長) 大野潤二郎(第二分団副分団長) 高橋勝利(同) 西田利文(同) 西田利文(同) 那須将生(第一分団副分団長) 横山武(第二分団副分団長) 中條正一(第二分団副分団長)

▽五年勤続 品田竹夫(第一分団副分団長) 長崎進(第二分団副分団長) 三好明(第一分団副分団長) 佐々木正泰(同) 東原均(同、団員) 広瀬勇(第二分団副分団長) 長崎重雄(第三分団副分団長) 石井照一郎(同、団員)

山口吉雄(同) 永井晴男(同) 齊藤栄一(第一分団副分団長) 佐々木忠夫(第二分団副分団長)

## 災害発生時の テレホン・サービス

幕別消防署札内出張所では、二月一日から、一斉指令装置を設備し署員及び消防団幹部団員の出動指令を自動化することになりました。

これに併せて、町民皆さんの問い合わせに、災害の発生場所・氏名・被害物件などを受信専用電話によって、お知らせすることになりますので、災害発生時の問い合わせは

次の番号をご利用ください。  
○一五二九九





# バター作りに大歓声

—ふるさと館に200人—

ふるさと館が「開拓小屋で年越しをしてみませんか」と呼びかけたところ、除夜の鐘とともに二百人もの親子が集まり楽しい年越しとなりました。この試みは今回で二回目、今回は「大正時代の製法でバター作り」に挑戦しました。クリームセパレーターやバターチャーンを使ってバターができて上ると子供たちは大喜び。さっそく試食して「売っているのと変らないね」と声をあげていました。



# 歩くスキー同好会が誕生

—第一回講習会開催—

いま全道的にブームを呼んでいる「歩くスキー」の同好会が幕別町にも誕生しました。同好会（会長、植地長男）にはさっそく四十人が入会。第一回の講習会が一月十一日行なわれ、ワックスの使い方などを学びました。また、一月二十五日には「歩くスキーの集い」が幕別温泉コースにて開かれました。



# 運動不足をダンスで

—途別ダンスクラブ—

「農村地域の冬の運動不足と地域の交流をダンスで」と途別ダンスクラブ（会長横山峻幸）が週二回の例会に汗を流しています。「途別ダンスクラブが結成されたのは昭和五十四年三月。平均年齢は四十歳以上。夫婦で参加しているのがこの会の特徴です」と話す横山さん。途別の人がばかりでなく、広く入会を呼びかけています。

# 寄付者のお名前

## ■消防署へ

▽笹原登さん（錦町）から消防施設整備に使ってほしいと二百万円  
▽宮本宅建株式会社（帯広市）から桜町団地造成にあたり消火栓一基（三十四万六千円相当）

## ■社会福祉協議会へ

▽わかふじ寮（新得町）から木工製品販売金の一部を社会福祉に  
と三万円  
▽折笠休治さん（緑町）から妻が生前お世話になりましたと五万円  
▽猪狩行雄さん（寿町）から父の香典返しを廃止して十万円  
▽匿名の方から千円

# 明野スキー場がオープン

—スキー場開きに六十人—

幕別スキー協会主催の明野スキー場開きが一月十日行われました。この日は、暖かくチビッコから一般のスキーヤー六十人が参加。「みかんひろい」やポール遊びで楽しい一日を過ごしました。また、暖かい牛乳の無料サービスも行なわれました。スキー場にはナイター設備もあり夜九時三十分まで楽しむことができます。



# 冬休み

おたのしみ会を開催

—南町第二公区子供会—

きびしい寒さに負けない丈夫な体をつくって楽しい冬休みを過ごすとうと南町第二公区（新田彰生公区长）の子供会では、昨年十二月二十六日、鉄南近隣センターで「冬休み子供おたのしみ会」を開きました。おたのしみ会には、二十八人が参加、ゲームや映画で楽しい一日を過ごしました。



ゲームに楽しむ子供たち

# タバコは町内で買しましょう

皆さんが毎日吸っているタバコには税金がかかりますが、町内で売られたタバコの量によって町へタバコ消費税が配分されます。昭和五十四年度では五千九百万円が収入されています。タバコは町内で買しましょう。

# 2月22日、 収蔵展示室がオープン！

お待たせしました。収蔵展示室を2月22日から公開します。ふるさと館の常設展示第2期計画のひとつで、主に文書資料を展示します。

古い本や新聞、書類、地図など約300点をテーマ別に展示します。

今回の展示の中からいくつか紹介してみましょう——幕別新聞・主要物資公定価格と闇価格便覧・村常会提要・青年訓練手帳・幕別村郷土読本・北海道読本・通俗明治農用大辞典・開拓のしおり・軍隊手帳・北海道尋常小学校

メン川が十勝川に注ぎ込む少し手前のヨシの枯れ草の影からは、いつも湯気が立ち込めていた。

その湯気に混じって、先ほどから青白い細い煙が2本、ゆらゆらとぼっていた。ちょうど近くを通りかかった1人の老婆が何やらアイヌ語で叫んだ。とたんに、ただよっていた煙は乱れ、あわてふためいてかけ出す足音が聞こえた。

逃げたのは、コタンの少年、稔のりと孝であった。稔の父親は、その名を十勝全体に知られた狩漁の名手であった。しかし、3年前の冷害の年の秋、いつもならコタンの

人々が生活に必要なとするサケの捕獲に目をつぶっていた役人は、家族や自分の力でサケをとれない老人たちのサケをとろうとサルベツ川の入口付近でマレップ（もり）を片手に獲物を追ってた稔の父を捕え、

家族たちの見ている中を後ろ手に縛って連行していったのである。その頃から稔は、父をケガでなくした孝とタバコや酒を飲んだり、いたずらや乱暴も目にあまるようになっていた。

老婆に叱られた2人は、そのまま十勝川の河原を下流に向かって走って行った。辺りが暗くなってきたので河原にあった人気のない漁師の見張り小屋に入り込み、そこにあった焼酎を飲み大声で騒いでいた。寒くなってきたので火を

農業書・第12回十勝連合体育大会プログラム・未開地貸付願・第一補充兵證など——この町の歴史そして人々の生活のようすを物語る文書資料がいっぱいあります。

昔のものを経験してきた中・高年のみなさんばかりでなく、若い人たちにとって町の歴史をふり返る大きな手がかりになるものがたくさんあり、年代を超えてご覧いただきたい展示室です。

収蔵展示室で興味を持ち、もつとく

焚きつけているうちに炎が大きくなり、あっという間に天井に燃え移り小屋全体をなめつくしてしまった。次の日、エカシ（コタンの長老）に説教された2人は、それぞれ厚岸と落合へ出稼ぎに行くことになった。

厚岸の漁場から帰った稔は、たった1年間ですっかりたくましい青年となり、アイヌの生活を豊かにする方法や、アイヌどうしがもつと助け合う大切さを青年の中で広めた。一方、落合の造林飯場から帰った孝は、そこで知り合った日高のアイヌの青年からアイヌ文

## ●連載 第13回

## 幕別 ものかたり

### (4)コタンに生きる(その3)

化のすばらしさとそれを守ることの大切さ、コタンの土地を守ることの大切さを学んできて、アイヌの民具

を集めたり、売り買いのできないアイヌの給与地を元に戻す努力をした。

狩漁民族であったアイヌ民族にとって限られた土地を生かして生計を立てることは至難の技であった。明治32年に制定された旧土人保護法（「旧土人」とはアイヌのこと）で1戸当り5町歩の土地を与えられた（給与地）が、ひどい傾斜地や湿地が多かったため、たびたび変更願いが出された。後に開拓などが入ってきた和人の中には、読み書きのできないアイヌに印鑑をつかせ事実上安い値段で買い取ったり、事情を知らない和人が和人から給与地を買い取る者などがいたりして、コタンの土地は次々と減り、それとともに人口も急激に減っていった。昭和34年に建てられた蝦夷文化千住考古館は、こうしたコタンの生活と文化を守ろうとした人々のシンボルであった。（小助川勝義・記）



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117  
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

わしく見たいという人は隣の図書室へどうぞ。文書資料のいくつかをコピーしてファイルに納めてあります。ただしこれは長い時間がかかる作業なので、収蔵室オープン時には昔の教科書の主なもののファイル40冊からスタートします。

## サーモン 通信

④

撮影＝居川研二さん(1月25日)



1月25日は、ふ化から50日目です。稚魚は体長4cm前後になり、みんな元気です。昨年にくらべて数がだんだん多いこともあって、2か所に分けて育てています。他の魚から病気が感染しないように水の循環をまったく別にした小型水槽（水温12℃）、昨年と同じくジャンボ水槽につり下げた水槽（水温13℃）の2つです。

さいのうとよばれるオレンジ色の袋はほとんど吸収しました。この頃から自分でエサをとるようになります。餌づけは順調で、朝と夕方の2回、配合飼料を与えています。

サケ科の稚魚の特徴であるパーマーク（側線にそってある楕円型の斑点）が、はつきりわかるようになってきました。